

街 路 樹 診 断 カ ル テ

No.

事務所名:

路線名		樹木医		診断日	年 月 日
樹木番号		樹高(H)=	m 幹周(C)=	cm 枝張(W)=	m
樹種名		植栽形態	☐ 単独樹 ☐ 植栽帯 ☐ 緑地内 ☐ その他		
		支柱	☐ 良好 ☐ なし ☐ 破損		

活 力 診 断	樹勢	枝の伸長量、梢端の枯損、枝の枯損、葉の密度、葉の大きさ、葉色等		良 ← ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 → 不良		
	樹形	主幹・骨格となる大枝・枝などの枯損及び欠損、枝の密度と配置等		☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5		
外 観 診 断	所見					
	活力判定	☐ 健全か健全に近い ☐ 注意すべき被害が見られる ☐ 著しい被害が見られる ☐ 不健全				
外 観 診 断	部 位 診 断	診断内容	部位	根元	幹	骨格となる大枝
		樹皮枯死・欠損・腐朽 (周囲長比率)		☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上
		芯に達していない開口空洞 (周囲長比率)		☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上
		芯に達した開口空洞 (周囲長比率)		☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上
		上記3項目のうち 最大被害部の周囲長比率	被害部幅 / 被害部周囲長 = 周囲長比率 %	被害部幅 / 被害部周囲長 = 周囲長比率 %	枯枝 ☐ なし ☐ あり()	スタブカット ☐ なし ☐ あり()
		キノコ(子実体)	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()
		木槌打診(異常音)	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()
		分岐部・付根の異常	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()
		胴枯れなどの病害	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()
		虫穴・虫フン、ヤニ	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()
		根元の揺らぎ	☐ なし ☐ あり()	建築限界越え 車道側	建築限界越え 歩道側	
		鋼棒貫入異常	☐ なし ☐ あり()	幹 ☐ なし ☐ あり	幹 ☐ なし ☐ あり	
		巻き根	☐ なし ☐ あり()	()	()	
		ルートカラー	☐ 見える ☐ 見えない()	枝 ☐ なし ☐ あり	枝 ☐ なし ☐ あり	
		露出根被害	☐ なし ☐ あり()	()	()	
不自然な傾斜	☐ なし ☐ あり()					
部 位 判 定	処 置	判定・処置	部位	根元	幹	骨格となる大枝
		健全か健全に近い		☐	☐	☐
		注意すべき被害が見られる		☐	☐	☐
		著しい被害が見られる		☐	☐	☐
		不健全		☐	☐	☐
		剪定が必要		☐	☐	☐
外 観 診 断 判 定	判 定 理 由	☐ A: 健全か健全に近い ☐ B1: 注意すべき被害が見られる ☐ B2: 著しい被害が見られる ☐ C: 不健全				

機 器 診 断	測定データ1	部位() 腐朽空洞率: %	t/R率: ① ② ③ ④
	測定データ2	部位() 腐朽空洞率: %	t/R率: ① ② ③ ④
	所見		

総合判定	☐ A: 健全か健全に近い ☐ B1: 注意すべき被害が見られる ☐ B2: 著しい被害が見られる ☐ C: 不健全
判定理由	

街路樹診断カルテ

No.

処 置 内 容	必要性	☐ なし	☐ あり	緊急性	☐ なし	☐ あり
	☐ 要観察(長期周期)			☐ 要観察(短期周期)		
	☐ 剪定(☐ 枯枝	☐ 腐朽枝等	☐ 支障枝	☐ 風圧軽減	☐ スタブカット	☐ 巻き根)
	☐ 樹体保護()			☐ 植栽基盤の改善()		
	☐ 根上がり()			☐ 病虫害防除()		
	☐ 更新()			☐ その他()		
	摘要					

そ の 他 特 記 事 項	立地平面図		診断概要図	
次回診断		☐ フォローアップ診断(☐ 要機器診断 測定部位:) ☐ 外観診断		
次回再診断時期		☐ 1年後 ☐ 2年後 3年後 (年度)		
位置座標 (WGS84)		緯度 経度		